

原 著

イメージしたことや伝えたいことを起点とした歌唱表現学習

—小学校における実践をもとに—

加藤晴子 (くらしき作陽大学音楽学部) 逸見学伸 (倉敷市立琴浦東小学校)

奥 忍 (岡山大学教育学部)

歌唱表現学習では、詩や楽曲のイメージや気持ちを表現する活動が多い。学習では、イメージや気持ちを伝え合うための体験が不可欠であり、その積み重ねが豊かな歌唱表現の実現に繋がると考える。

そこで本研究では、相互のコミュニケーションの視点から歌唱表現の学習プランを提示し、授業実践を行った。授業の観察と分析を通して学習の有効性を検証した結果、以下の点が明らかになった。

- ① 表現したいことを考え歌唱の工夫をすることを通して、表現する楽しさを味わうことができた。
- ② 自分が表現したいものを実現するためには何が必要かを子ども自身が考えることができた。
- ③ 表現の多様性に気づき、互いの表現を認め合うことができた。

キーワード：イメージ、歌唱表現、コミュニケーション、自由な表現、歌唱技能の習得

I はじめに

歌唱学習では、詩や楽曲から受けたイメージや感じたことを表現する活動が多い¹⁾。活動では、いかにイメージを喚起しそれを表現に繋げるかがポイントになると考える。ところがこの点については、楽譜に示された発想記号等に沿って曲の外形をなぞる程度の活動や、教師が表現したいものを学習者に表現させる活動に止まることが多い。学習者は、詩や旋律の解釈を通してイメージを膨らませることができものの、それをどのように表現するかについては指導者が指示している場合が多い。

そこで本研究では、イメージしたことや伝えたい気持ちを起点とした歌唱表現学習のプランを作成し、実践を行った。授業実践の観察と分析を通して、学習プランの有効性を検証したい。

II 学習プラン

次に、小学校における学習のプランを提示する。本学習プランの特徴は、以下の4点を視点として活動を展開している点にある。

- (1) コミュニケーションを視点としたアプローチであること。
- (2) 声だけでなく身体表現も含め、自分の気持ちやイメージを自由に表現し伝える活動を行うこと。
- (3) 表現の多様性や可能性について、子ども自身が

気づくような活動を行うこと。

- (4) 自分が表現したいことを基に、子ども自身が歌唱技能の必要性に気づくような活動を行うこと。

III 指導計画

- 1) 対象者、授業日時：倉敷市立琴浦東小学校第5学年2組 (在籍児童36名)、2006年9月22日 (金) 第1, 第2校時、於：体育館

- 2) 授業者：逸見学伸、加藤晴子

- 3) 題材名：イメージや気持ちを伝え合おう。

- 4) 指導目標

- (1) 声や身体全体を使って、イメージや気持ちを表現する楽しさを味わう。

- (2) 自分が伝えたいことが相手に伝わるためにはどのようにすると良いのかを考え、表現を工夫して歌唱する。

- (3) 表現の可能性や多様性に気づき、互いの表現を認め合う。

- 5) 指導計画 (全2時間)

【第1時】

- (1) 身体や言葉によるコミュニケーションをする。

- (2) 動きから相手の気持ちを感じ取り、それに対応して自分が伝えたいことを身体表現する。

- (3) コミュニケーションを行うには、自分の気持ちをどう表すかと同時に相手の気持ちを感じ

取ろうとすることが大切であることに気づく。

【第2時】

- (1) お互いを意識しながら、声や音による表現のキャッチボールを行う。
 - (2) 自分のイメージや気持ちが伝わるように、相手を意識しながら身体全体を使って表現する。
 - (3) コミュニケーションの視点から表現の楽しさを味わい、歌で表現することに興味をもつ。
- 6) 題材設定の理由 (略)
- 7) 教材について

『知らない子』(作詞：宮沢章二・作曲：大中恩)

本曲は5音階を基にしたわらべうた風の作品であり、旋律やリズムは平易で親しみやすく、歌詞の内容も子どもたち自身も体験のあるものである。そ

のため本曲は、子どもが自分の経験を基に詩の登場人物の言動を考えることを通して相互のコミュニケーションを意識し、イメージや気持ちを伝えあう視点から歌唱表現の工夫をするのに相応しいと考える。以上のことから、本曲を教材として選択した。

8) 子どもの実態

本学級の子どもたちは歌うことがとても好きである。また、詩の朗読も常時行っており、声を出すことへの抵抗感も少なく、自分の表現したいことを少しずつ声で表現できるようになってきている。しかし、コミュニケーションの視点から表現について考えたり表現の工夫をするような学習はしていない。本学習は、子どもたちにとって初めての経験である。

9) 学習指導案

(第1時)

目標(1) 身体や言葉による様々なコミュニケーションを体験する。 (2) コミュニケーションでは、自分の気持ちをどう表すかだけでなく相手の気持ちを感じ取ろうとすることも大切であることに気づく。		
学習活動	教師の支援 (T1: 逸見, T2: 加藤)	評価の観点
1. 本時の学習のめあてを認識する。	・本時の学習活動のめあてを伝える。(T1)	・本時のめあてを認識できたか。
2. 身体動作によるコミュニケーションを体験する。 2-1 見えないボールでキャッチボールする(2人1組)。 2-2 見えないボールでパレーボールの円陣パスをする(グループ毎)。 2-3 見えない縄で縄跳びをする。 ・2人1組及び大縄。	・活動でのルールをわかりやすく説明する。(T2) ・言葉を用いなくても身体動作だけでコミュニケーションができることに気づかせる。 ・教師が例を示す。(T1, T2) ・互いを十分に意識し、相手の視線や動作に対応して動くよう指示する。(T1, T2) ・大きな円を作らせる。言葉を交わさずにまん丸の円を作るにはどのようにしたら良いかを問いかけ、自分と他の人との関係を感じ取ることの必要性に気づかせる。(T2) ・ボールをパスしたい相手をしっかり見ることやパスをした人の動作に対応して動くこと等を指示する。 ・教師が例を示す。(T1, T2) ・一緒にうまく縄跳びをするためには互いに息を合わせる事が大切であることに気づかせる。	・相手の動作に対応してボールを投げたり受けたりできたか。 ・パスした人の動きを感じ取り、それに対応して動くことができたか。 ・相手を意識し、息を合わせる大切さを感じ取ることができたか。
3. 雲をイメージして呼びかけを行う。 3-1 雲のイメージを膨らませ、伝えたいことを思い浮かべて呼びかける。 3-2 呼びかけゲームを行う。 (詩：『雲』山村暮鳥)	・雲を自由にイメージさせる。(T1) ・イメージした雲に向かって、届けたいことを考え、それが届くように呼びかけをさせる。 ・相手に伝えたい気持ちを全力でぶつけていくことが大切であることと、投げかけられたものを受けとめようとする気持ちが大切であることに気づかせる。 [呼びかけゲーム](・必要に応じて教師が例示する) ・雲の役の子どもを(5-6人)間隔をあけて後ろ向きに立たせ、その中の1人に向かって呼びかける。自分が呼びかけられたと感じた子どもが振り返る。 ・どのように呼びかけると雲が振り向いてくれるか、呼びかけの工夫をさせる。	・気持ちが届くように呼びかけることができたか。 ・距離と声の大きさの関係や身体の使い方、届けたい内容と声の強さや音色の関係等に気づくことができたか。
4. まとめ ・ワークシート記入。	・活動を振り返り、コミュニケーションを行う上で必要なことについて発言を求めながら整理する。(T1)	

(第2時)

- 目標(1) 自分のイメージや気持ちが伝わるように、表現の工夫をする。
(2) コミュニケーションの視点から表現の楽しさを味わい、歌で表現することに興味をもつ。

学習活動	教師の支援 (T1: 逸見、T2: 加藤)	評価の観点
1. 前時の復習をし、本時の学習のめあてを認識する。 『知らない子』を歌う。	・前時の学習活動を振り返り、ポイントを整理する。 ・本時の学習活動についてわかりやすく話す。(T1)	・前時の学習を振り返ることができたか。
2. 『知らない子』の歌詞を理解し、イメージを膨らませる。 2-1 詩の内容を捉える 2-2 歌われている情景を捉え、イメージを膨らませる。	・ここでは歌唱表現については触れない。 ・フロアに車座になって話し合う。子どもの体験や素直な発言が出てくるような雰囲気を作る。(T2) ・子どもが詩の登場人物と自分を重ね合わせて捉えられるように、つぶやき程度も含め個々の発言を大切に作る。 ・詩の登場人物が行っているコミュニケーションの様子について全員で考えていく。それを通して一人ひとりのイメージを膨らませる。	・自分の体験等と関連させて情景を想像したりイメージを膨らませることができたか。
3. 『知らない子』を表現の工夫をして歌う 3-1 『知らない子』の詩を基にグループ毎にストーリーを作る。 3-2 ストーリーが感じられるように表現の工夫をする。 3-3 グループ発表をする。	・歌唱表現については何も指示せず、自由に歌わせる。(T1) ・歌詞を記した A3 大の用紙にストーリー記入させ、更にストーリーが伝わるためにはどのように歌うと良いかを考えて記入させる。教師の助言は最低限にとどめる。(T1、T2) ・旋律やリズムは変えずに、伝えたいことを歌で表現するには、どのようにしたら良いのかを考えさせる。 ・表現を考えるヒントとして、教師が『キラキラ星』の冒頭部分を複数の歌い方で歌い、表現の意図を問う。(T2) ・発表者がどのようなことを伝えたいのか、考えながら聴くように指示する。(T1)	・グループで協力してストーリーを作ることができたか。 ・気持ちを伝えるために表現を工夫することができたか。 ・興味をもって発表を聴くことができたか
4. まとめ ・ワークシート記入。	・活動を振り返り、歌唱表現をする際には、どのようなことが必要なのか、子どもの発言をもとにして整理する。(T2)	

10) 評価の観点

表現の工夫をして歌うことができたか。

- ・声や身体動作に興味をもち、表現することの楽しさを味わうことができたか。
- ・相手に伝わるためにはどうすると良いかを考え、
- ・他者が表現しようとしていることを感じ取り、互いの表現を認め合う気持ちを持つことができたか。
- ・表現の多様性や可能性に気づくことができたか。

譜例『知らない子』(作詞：宮沢章二／作曲：大中恩)

しらないこだけどわらったよ かきわのそばでわらったよ
よぼうとおもってでてみたら かきねのかげにかくれたよ
しらないこだけどあそんだよ かきねのそばであそんだよ

IV 授業観察とワークシート及び調査紙の分析


まず、学習活動の全体を捉えたい。活動の概要を表1に示す。表1は、全授業記録から各時間の子どもの発言や行動を抜粋したものである。

1 授業の分析・考察

①子どもの活動の様子

表1 学習活動と子どもの様子 (第1時)

時間経過	学習活動	子どもの様子
0m.	1 本時のめあての認識	[凡例] T1: 逸見, T2: 加藤, C: 子ども, Cs: 子ども複数, C-all 子ども全員, All: 全員 T1: 普通はコミュニケーションは目と言葉を使ってするね。例えば、朝は・・・ Cs: おはようございます。
4		T1: 「おはようございます」って言ったり言葉でコミュニケーションしたりするでしょ。今日は言葉は使いません。(目当てを板書)(略)
5	2. 身体によるコミュニケーション。 (見えないボールと縄) 2-1 キャッチボール。	T1: 言葉を使わずに相手とチャッチボールしてみてください。わかった? 絶対言葉を使っちゃだめだよ。(子ども活動開始。)(中略) (教師の例示後、子どもたちが円陣パスを開始。戸惑う子ども有り)(中略)

30	2-2 バレーボール。 2-3 縄跳び。	(教師の例示後、子どもたちが縄跳びを開始。)(中略) T1: 一斉に跳ぶ時、縄があるわけじゃないよね。先生が(縄)を持っているわけじゃないでしょ。何に気を付けたか話し合ってみよう。(以下、発言のみ) C: 人のすることを見て、それに合った動きをする。 C: 回す人の手をみる。 C: 跳ぶタイミングとかを合わせる。
31	3. 雲をイメージして呼びかけ。 (詩: 山村暮鳥「雲」) 3-1 雲をイメージ。	T1: 「雲」って、今ね、どこに向けて呼びかけてみた? Cs: 空。(口々に)(中略) T1: どんな形をした雲だと思う? ちょっと教えて。(以下、発言のみ) C: 入道雲。 C: うろこ雲。 C: ひつじ雲。(中略)
	3-2 伝えたいことを考えて呼びかけ。	T1: どんな風に、何を呼びかけてみたい?(以下、発言のみ)(*) C: 雷雲、雨降らせ。 C: 綿菓子みたいな雲、ちょっと食べさせて。 C: 雲の上に乗せて。 T1: 自分の思い浮かべた雲にちゃんと呼びかけるようにやってみるよ。(中略)
45	3-3 呼びかけゲーム。 	(T1 がやり方の説明と例示後、子どもが行う。)(中略) T1: (振り向いた子どもに)なんで自分だと思った?(以下、発言のみ) C: 背中から声が押し寄せてくる感じ。 C: 背中に冷たい空気が来るみたいな感じ。(中略) T1: じゃあ、呼びかけた人、どんなことを意識した?△△君。 C: 振り向いて。 C: 通じてって。(以下、略)

(第2時)

時間経過	学習活動	子どもの様子(発言、行動を授業記録より抜粋)
0m 3	1. 前時の復習、本時のめあての認識。 ・「知らない子」歌唱。	(T1 前時の学習について要点を挙げながら確認)。 T1: 今度は、歌で表現してみよう。(中略)(「知らない子」を歌う)
4 17	2. 「知らない子」の歌詞の理解とイメージの拡大。 2-1 詩の内容について話し合い。 2-2 詩に歌われている情景のイメージを拡大 	T2: みんな、知らない子と遊んだことある?(**) Cs: ある。ある。めっちゃある。(口々に) T2: その時のことについて教えて。 C1: 「なにしてるの?」とか「何して遊ぶの?」とか「一緒に何々しない?」とか言う。 T2: (略) じゃあ、知らない人に遊ぼうっていわれたことある? Cs: ある。ある。 T2: 「知らない子だけど笑ったよ」って、どうして笑ったのかな?(以下、発言のみ) C: 目が合ったから。 C: 声が聞こえない(ちょっと離れた)ところにいたから。(中略) T2: 「呼ぼうと思って…」とあるけど、何で呼ぼうと思って出てみたのかな? C: 一緒に遊ぼう。 T1: どんな風に呼びかけたんだろう?(以下、発言の一部) C: ヤッホー! C: 遊ぼう! C: 一緒に遊ぼうよ。 C: 暇じゃったら一緒に遊ぼう。 C: 何しよん?
18 40	3. 表現の工夫をして「知らない子」を歌唱。 3-1 グループ毎にストーリー作りと表現の工夫。 3-2 グループ発表。 	T2: (略) 今のみんなの意見をもとにしてお話を作ってもらえるかな?(中略) T1: 後で各グループで様子が分かるように歌ってもらいます。(中略) その時のポイント、(歌って)♪たんたらたらたらた…という曲やリズムを変えてはいけません。(グループ活動開始)(中略)(中間発表1チーム) T1: 歌っている人は何に気を付けたの?(中略) C: 暗さと明るさを工夫しました。(子ども、拍手) (各グループの発表後、歌唱についてどのように聞こえたのかを問う。) T1: 何か変わったのに気づいた人?ここがこんな風にかわっていたとか? C: 「隠れたよ」のところが少し暗くなっていた。(以下、発言のみ) C: 最初の方、少し暗そうに聞こえた。 C: 「一緒に遊んだよ」のところが、暗い。感じ C: 楽しそうな所とか暗い所とか、はっきりしていてわかりやすかった。 C: 「隠れたよ」が、なんか、しょんぼりした感じ。 C: 「垣根の側で遊んだよ」が強い感じ。 C: 「垣根の側で隠れたよ」が最初の方からどんどん暗くなっていく感じ。
41 45	4. まとめ	T1: 2時間目にやった活動の感想をワークシートに書いてもらいます。(以下略)

② 各時の学習活動の分析・考察

第1時の活動2の身体によるコミュニケーション活動は子どもにとって初めての体験であったため、当初、戸惑う様子もみられた。しかし、要領を得るにつれて活動が活発になり、大縄跳びでは子どもの集中が高まった。休み時間に、子どもから「大縄が一番面白かった」や「縄が見えたよ」等の声がきかれた。ワークシートにも「長縄を跳ぶ時、本当に縄が見えてきて、ついいつものくせでひょいとよけてしまった」や「本当に縄があるみたいで、この人は跳べたとかこの人は跳べなかったとかがすごくわかった」等の記述がみられた。このように子どもたちは興味をもって活動することができたといえる。

活動3の詩「雲」による呼びかけでは、子どもの発言が活発であった。子どもが思い思いにイメージした雲に呼びかけることができたといえる(表1*参照)。一方、活動3-3の呼びかけゲームでは、聞く側の子どもたちが、声の大きさや聞こえてくる方向から自分が呼びかけられたのかどうかを判断しており、呼びかけに共感したら振り向くという教師が意図したねらいとは外れた結果になってしまった。この活動は、子どもたちにとっては難しく、活動自体の改善の必要を感じた。

第2時の活動2の歌詞について考える活動でも、子どもの発言が活発であった。(表1**参照)詩の内容について、子どもが自分の体験をもとに考え、イメージを膨らませることができたといえる。

活動3の歌唱表現の工夫では、グループ毎のストーリーを作りは比較的スムーズであった。しかし、歌唱では表したいことをどのように声にすれば良い

のか迷ったり、音程が不安定になる等の躓きがみられた。曲の音域が子どもの会話や音読の音域より高かったことも表現を抑制した一因と考えられる。

活動全体について実践者の一人である逸見教諭は次のように述べている。

歌唱表現の前に身体全体を使ったコミュニケーション活動を行うことで、全身でものを感じたり、相手の動きに対応しながら身体動作をしようとする等、表現にむけて身体が次第に敏感に動くようになっていく様子がみられた。その後の詩の朗読では、自分なりの思いをもって解放された状態で表現しようとする姿がみられた。しかし、歌唱表現になると突然萎縮したり、全くイメージが湧いてこなかったりする子どもが多くみられた。また、自分の歌声に自信が持てなかったり、歌声が自分の表現したいことと違っていたりするために、戸惑いを見せる子どもが多くみられた。自分が伝えたいことを表現するための歌唱技能の習得が課題であると考えられる。

2 ワークシートと調査紙の分析・考察

① 学習活動について- ワークシートの分析・考察-

ワークシートの回答を整理し、各視点から分析・考察を行う。なお、回答の書式は自由記述とし、いずれの場合も回答が複数項目にわたる場合には各々を1回答として計数した。

Q1「今日の学習でわかったこと気づいたこと、印象に残ったこと」の回答は、「身体によるコミュニケーションに対する興味・関心」「学習でわかったこと」「歌集表現の工夫に対する興味・関心」の3点に整理できる。それらを表2-表4に示す。

表2「身体によるコミュニケーション」に対する興味・関心(回答数:全28)

	回答数	記述例
楽しさ 興味	24名 85.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボールの時、〇〇さんと色々な球を投げたり、捕ったりして楽しかった。 ・キャッチボールをした時、最初は上手くなかったけれど、だんだん上手くなった。 ・長縄になった時、人の動きを察知して、見えない縄も跳べたと思う。 ・縄跳も、縄を回す人の手を見て跳ぶととても楽しかった。 ・またやりたい。
困難	2名 7.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・見えない縄で跳ぶのが難しかった。 ・言葉を使わないで相手とコミュニケーションを取るのが難しかった。
理解	2名 7.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が強く打てば、それに合った動きをしてコミュニケーションがとれた。 ・人の目や動きをしっかり見てコミュニケーションがとれた。

ワークシート

ワークシート「イメージや気持ちを伝え合おう」

第5年生 組 番 名前

Q1. 今日の学習でわかったことや気づいたこと、印象に残ったことを書きましょう。

第1時	第2時

Q2. 今日の学習をして、歌うことについての気持ちや歌い方が前と変わりましたか? 自分で変わったなと感じたことがあったら、何についてでも良いので自由に書きましょう。




表3 第1時の学習でわかったこと、気づいたこと (回答数: 全31)

	回答数	記述例
身体動作に対する理解	13名 42.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄跳びの時、透明の縄が本当にあるように見えた。 ・相手の投げ方で強く投げているのか弱く投げているのかがわかった。 ・周りの人が本当に何かあるようにしてくれたので、私もこうすれば良いのかと参考になった。
コミュニケーションの意識	10名 32.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は相手(友だち)のことを考えずに自分だけで精一杯だったけど、わかっていくうちに友だちのことも考えられるようになった。 ・コミュニケーションは言葉でできるだけでなく、体でもできることが分かった。 ・コミュニケーションは大切だなあと思った。
コミュニケーションの難しさ	5名 16.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を使わないことは難しいんだなあと思った。
その他	3名 9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉は大切だなと思った。

表2から、子どもたちが身体によるコミュニケーションに興味をもって活動していたことがわかる。表3から、子どもたちが身体動作で気持ち伝えたり、感じとったりする活動を通してコミュニケーションを再認識し、コミュニケーションする上で何が必要なのかに気づくことができたといえる。また、回答の中に「コミュニケーションは言葉でできるだけでなく身体でもできることが分かった」という記述がみられる。コミュニケーションにおいて言語が占める割合は35%程度であり、非言語によるものの占める割合が大きいといわれていることから、そのような子どもの気づきは注目される²⁾。

表4から、多くの子どもが自分たちで表現の工夫をする楽しさを味わい、自分なりの学習成果を感じていたことがわかる。その一方、発展の欄の「100%出し切れなかった所もあった」という記述のように、自分たちの表現について冷静に評価している子どももいる。これは、子ども自身が表現技能の必要性を感じたとも捉えられる。

次に、第2時の学習でわかったことや気づいたこと、学習で印象に残ったことを表5と表6に示す。

表4 「知らない子」の歌唱表現の工夫に対する興味・関心等 (回答数: 全22)

	回答数	記述例
楽しさ 興味	11名 50.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・詩をみんなで工夫したりしてとても楽しかった。 ・表情がいっぱいできて、みんなが笑ったりするのははっきり見えて楽しかった。 ・詩の言い方を変えたり、明るくなったり、暗くなったりするのが楽しかった。
学習成果	7名 31.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリー作りは難しかったけどみんなの意見が出たからできた。 ・私たちのグループもみんなで協力し合っているの考えた。 ・最後の所でいっぱい伸ばすように工夫した。 ・歌の中に、はっきりした、明るく、暗く、遅く、少し速くという風に工夫した。
発展	3名 13.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・「知らない子」の替え歌を作ってみたかった。 ・100%出し切れなかった所も少しあったから全力でいきたい。
困難	0	
その他	1名 4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・心をこめて歌った。

表5 第2時の学習でわかったことや気づいたこと (回答数: 全18)

	回答数	記述例
表現に関する理解	8名 44.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・歌にも思いや意味がたくさんあることに気づくことができた。 ・歌詞の1文でストーリーができることや、歌で何でも表現できることが分かった。
学習成果	5名 27.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に「これは暗めじゃない?」「ここはテンポを速く」など相談して歌うと、なんだか少し上手になったような気がした。 ・「目が合ったんじゃない」「ここは呼びかけてたんじゃない」等とみんな色々な意見を出し合った。出来上がった歌った時は、いろんな所、その歌詞の気持ち、込められた思い等を思いながらできたんじゃないかと思った。
歌唱の様子・変化	5名 27.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで暗い所や明るい所を歌って、すごく変わった。 ・知らない子の思いと、一緒に遊んだ子の思いが伝わってきた。

表5から、子どもたちは、歌い方の工夫について意見を出し合ったり、他のグループの発表を聴くこと等を通して、表現の多様性に気づくと共に、他者の表現の意図も感じ取ろうとしていたことがわかる。

表 6 第 2 時の学習で印象に残ったこと、感動
(回答数：全 29)

	回答数	記述例
表現	11名 37.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・速い所や遅い所、暗い所明るい所を全部使い分けていた。 ・どのグループも暗さや明るさがよくわかった。 ・みんなの発表が色々全部ちがって「ああ、ここはこんな所なんだな」って思ったりした。
学習成果	7名 24.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの班も色々工夫して色々な声が出せたから良かった。 ・歌い方の工夫について最初は全くわからず考えるのが大変だったけど、意見を出していくうちに、だんだん明るさや暗さをつけることができるようになった。
困難	5名 17.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・「隠れたよ」の所をどう歌えば良いかわからなかった。もう少し時間がほしかった。 ・歌に色々な気持ちを入れるのが難しかった。
活動	4名 13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな一生懸命に詩を作っていた。 ・歌う時はちょっとドキドキしてたけど、いっぱい感想を言ってもらって嬉しかった。
興味	2名 6.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・感情をつけてみると、最初歌った時よりも表情とかがやりやすかった。 ・「恥ずかしい」「迷う」「楽しい」「嬉しい」はどれも体感したことのある気持ちだったのでとても歌いやすかった。

表 6 から、子どもたちは、自分たちが伝えたいことを音の明暗や強弱、テンポ等の要素を工夫することによって表現しようとしていたことがわかる。同時に、明暗や強弱等の変化や組み合わせをもとに他者の表現を感じ取り評価していたことがわかる。その一方、表現の難しさを感じ、躓きを感じていた子どももいる。

このように、子どもたちの活動は全般に積極的であり、活動に対する満足感や学習成果を感じていたといえる。しかし、自分たちの歌唱表現自体に満足していない子どももみられる。この点に関して、後述する後日の調査から具体的に明らかになった。

② 学習によって生じた歌唱の意識の変化

子どもたちの歌唱に対する意識が学習によってどのように変化したのかについてみていきたい。表 7 に、ワークシートの Q2 「今日の学習をして、歌うことについて、気持ちや歌い方が変わりましたか？」の回答を整理して示す。回答は、大きく「歌い方」「気持ち」「表現」「その他」の 4 種に分類できる。

表 7 歌うことについての気持ちや歌い方について (回答数：全 76)

	記述例	
歌い方	【歌い方の変化】(回答数：15) <ul style="list-style-type: none"> ・「知らない子」をちょっと違う読み方で読む時、みんな声を小さめにしたりしてとてもすごかった。もっともっと声をだして、もっと上手になりたい。またやりたい。 ・いつも歌う時に何も思わずただ歌っていただけだったけど、今日は、気持ちの入った歌を歌えたと思う。 ・歌い方がとても変わった。「知らない子」はただ普通の、そのままの意味で歌って通していたので、実際に歌ってみると、歌も良いものではなかった。それを「どうして?」「どうして?」と考えたら「本当の意味」が分かって歌うのも楽しくなった。 	【わかったこと】(回答数：5) <ul style="list-style-type: none"> ・歌い方はみんな色々で、1人1人の違いがみんなあるんだなと感じた。 ・もっとこうしたらこんな風になって、こういう風にしたらこんな上手になれるんだ、と分かりだしてきたと思う。 ・歌はきれいな声だけじゃなく、一つ一つの意味を考えて、明るさや暗さ、喜怒哀楽を表現したら、より一層、その歌のことや、ストーリーが頭に浮かんできた。聞いている人も、この歌やこの人はこう思って歌ってんだなと思った。
気持ち	【気持ちの変化】(回答数：6) <ul style="list-style-type: none"> ・自分が変わったと思った所は、歌や詩を頭の中で想像して読んだり、歌ったりできるようになったこと。 ・私は「知らない子」を歌う時、普通になんとなく歌っていた。でも、号車のみんなで話し合った時は、ただ何となく歌っていたのに、だんだん気持ちがこもった歌い方にしようと思いました。こういうことをきっかけに変わった自分は、いいなと思った。 	【わかったこと】(回答数：5) <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えるにはどういう風にしゃべれば良いか、相手はどんな気持ちだろう等、伝えたり感じたりすることが分かった。
表現	【表現しようとしたこと】(回答数：1) <ul style="list-style-type: none"> ・知らない子が初めて笑ったときは、恥ずかしがっているように歌って、「垣根の側で」は、慣れたから明るく、笑っているように歌って、「垣根の陰に隠れた」のは、恥ずかしくて隠れたと思ったから、暗く歌った。 	【表現についての感想】(回答数：12) <ul style="list-style-type: none"> ・一番最初に歌った時は、表情をつけていたけど、どこでどのような表情をつけたら良いかわからなかった。でも、グループで相談して表情とかを付けたら最初の時と全然違った。 ・最初は工夫をしないで普通に歌っていたけど、みんな考えて工夫して歌えた。 ・歌でもっと表現したいと思った。 ・表現するのが難しかったから、今度はちゃんと出来

		るようにしたい。 ・「知らない子」を歌ったとき、その子の気持ちを考えてするのは大変だと知った。次は、もっと感じとれば良いなあと思った。
その他	【学習の取り組みに関して】(回答数:15) ・号車で1人1人が発表できたから変わったと思う。 ・みんな色々変えてとても楽しかった。またやってみたい。	【嬉しかった、楽しかったこと等】(回答数:17) ・言葉がなくても伝えられておもしろかった。 ・長縄などどれもとても楽しかった。長縄は縄が無いのに、みんな相手に対応していて気持ちが良かった。

表7から、多くの子どもが自分たちの歌い方の変化に気づいていることがわかる。中でも、歌う時の気持ちの変化と表現されるものを関係づけて捉えている点が注目される。子どもたちは表現することの難しさを感じながらも、表現に対する意欲や興味を高めることができたといえよう。

3 歌唱の比較

子どもたちは、本学習を始める時点で「知らない子」を完全に覚えて歌っていた。ここで、表現の工夫をする前と後の歌唱を比較してみたい。

表現の工夫前の歌唱では、全体的に音程が安定し、声がむら無くでているものの、強弱や音色の変化が乏しい。どのように表現するのかよりも、十分なブレスや正しい音程等の技能を意識した歌唱といえる。

一方、表現の工夫をした歌唱では、明暗や強弱の変化がみられた。ワークシートには「詩の楽しそうな所を明るく、寂しそうな所を暗く歌おうと思った」等の記述もある。とはいうものの、各グループに共通して音程が不安定になる箇所がみられた。例えば、「かげに隠れたよ」の部分では音程が下がる現象がみられた(図1参照)。ワークシートに「恥ずかしくて隠れたから暗くした」「しょんぼりと少し悲しく

暗くした」等の記述があることから、暗く歌おうとして音程が下がってしまったと考えられる。また、「遊んだよ」の最終音が上擦る現象もみられた(図2参照)。ワークシートの記述に「嬉しそうにしたいので高め、長めにした」等がある。このことから嬉しそうに歌おうとして音程が上擦ったと考えられる。これらの例を図1と2に、杉スピーチアナライザーによるピッチ曲線を用いて示す。

このような現象は、旋律の高低の動きの幅が言葉の抑揚よりも著しく大きい箇所にもみられる。このことから、子どもは表現のための身体のコントロールが未だ不十分であったために、気持ちを込めようとして音程が不安定になったと考えられる。

歌唱の意識の変化についても、ワークシートに記述がみられる。例えば「普段は何も考えないで歌っていたが、この学習で自分たちで考えることで歌う時の気持ちが変わった。」である。また、ある子どもは「明るい声を出そうとしても何か変な声が出たりして笑ってしまったこと」と記述した上で「変になっても気にしないような心をもてば、堂々と良い歌になったと思う」と記述している。十分に満足するような結果が得られなかったものの、子どもの歌唱表現に対する意欲は高まったといえよう。

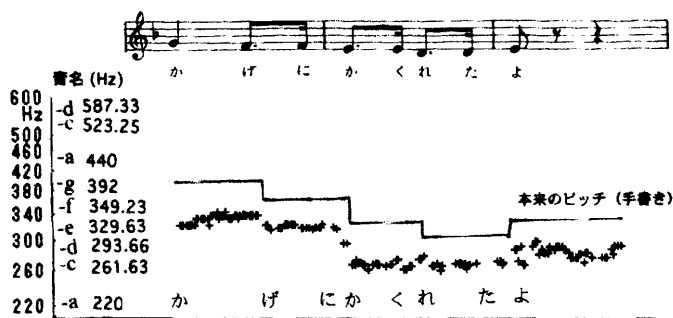


図1 音程が下がった例

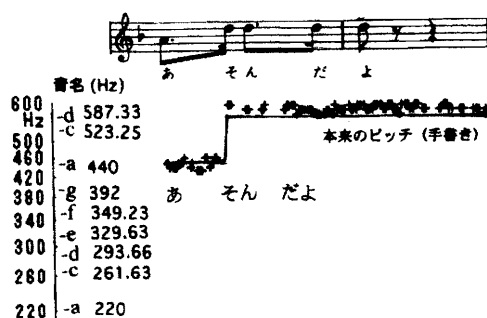


図2 音程が上擦った例

4 歌唱表現に対する子どもの意識- 調査紙の分析・考察-

授業実践の後日に、調査紙を用いて子どもたちに

自分たちの歌唱表現について質問した。回答の書式は、選択および自由記述とした。記述内容を整理して以下に示す。

【質問内容】
 Q-1：表現しなかったことは何か。
 Q-2：表現してみたどのくらい満足したか。(やりたいことができたか)。
 ①満足 ②まあまあ ③あまり ④不満
 Q-3：満足できたことは何か(どんなことができたから満足したのか)。
 Q-4：満足できなかったことは何か(どんなことができなかったから満足できなかったのか)。
 Q-5：どんなことができるようになれば自分の表したい感じがだせるようになるか。

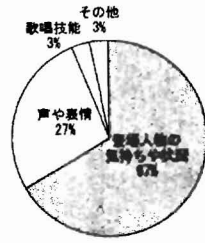


図 3 : Q-1

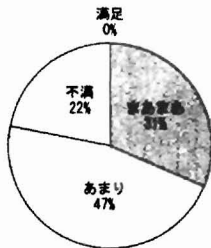


図 4 : Q-2

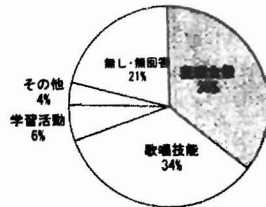


図 5 : Q-3

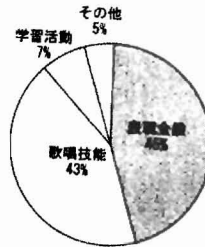


図 6 : Q-4

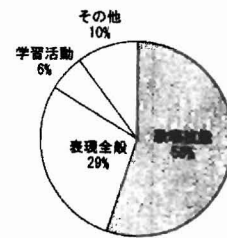


図 7 : Q-5

図 3 から、多くの子どもたちの表現しなかったことが、登場人物の気持ちやその変化であることがわかる。それは、「知らない子の気持ち」や「知らない子と遊んだこと」等である。図 4 から、満足した結果が得られなかったと感じていた子どもが多いことがわかる。また、満足した点については、図 5 のように多くの子どもが音楽表現や歌唱技能を挙げている。その理由は、音の明るさや暗さ、長さ等を工夫して歌うことができたこと等である。その一方、図 6 に示したように満足できなかったこととしても、

表現全般と歌唱技能に関わる記述をした者が多い。このことから、子どもたちが歌唱技能の必要性に気づいたことがわかる。それが図 7 に示した回答に繋がっている。例えば「自信をもって歌えるようにする」「明るい声と暗い声をだせるようにする」等の回答である。

ここで、2人の子ども(A児, B児)の記述を表 8 に示す。子どもたちは自分たちの歌唱表現についてある程度、客観的に捉えており、自分たちの歌唱の良い点や課題等気づくことができたといえよう。

表 8 子どもの記述例

事例	表現しなかったこと	表現に対する満足度	満足したこと	満足できなかったこと	どのようなことができるようになると良いか
A児	・「笑った」なら楽しく歌う。 ・「隠れたよ」だったら少し残念だから暗く歌う。	まあまあ	・明るい声がだせた。 ・みんなと語り合えた。	・明るい声は出せたけど、暗い声が出しにくかったから区別がつかなかった。 ・リズムに合わせるのが難しかった ・元気良く表せなかった。	・大きな声でも、暗い声が出せたら良い。
B児	・知らない子同士が笑った時と遊んだ時の気持ち。	不満	無い。	・歌った時、自分のしなかったことがほとんど表現できなかった。	・表現したいことを声の明るさや暗さで表現できたら良い。

V 本実践のまとめと今後の課題

1 本実践の成果と問題点

- 本実践の結果をまとめると以下のようなになる。
- 子どもは表現する楽しさを味わうことができた。
- 子どもは、強弱、明暗、テンポ等に注目して工夫して歌うことができた。しかし、未だ身体や声を十分に使いこなすことができないため、子ども自身が満足するような歌唱表現には至らなかった。
- 子どもは、様々な表現ができることに気づき、互

いの表現を認め合うことができた。

2 今後の指導について

本実践では、子どもたちの活動した満足感や達成感について不満や疑問がみられた。このような子どもが活動後に抱いた疑問や躓きは、子どもの歌唱表現力を高めていく上で欠かせない経験といえよう。このような揺り返しは、習得過程一般にみられるものである。堀尾輝久(1987)は次のように述べてい

る。「物事の理解において、十分に深く関わったという満足を一時は味わうものの、それは次に生じる問いによって足もとから問い直される。新しい問いを含む内的矛盾の深まりに突き動かされて、次の果てしない探究に向かうというのが真実の探究者の姿であり、子どもの試行過程と理解の深まりも同質である。教育的働きかけ自体がこの内的矛盾を引き起こす動因を作っている。」³⁾。

したがって学習では、子どもが抱いた疑問や躓き等を次の課題とし、それを解決していく形で活動を進めることが有用であると考えられる。具体的な指導ポイントとして次の2点が挙げられる。

① 歌唱技能習得のための指導の工夫

子どもが感じた必要性和関連させた形での学習、すなわち、子どもが表現したいことやイメージと、身体の使い方や生じる声とを関連づけて歌唱技能の習得の学習を行うことである。それによって歌唱技能の習得の学習が意味のあるものになると考える。

② 歌唱表現を行うための基盤となる様々な音楽的体験の充実

生活の中の様々な形態の音楽を聴いたり歌ったりすること、同一曲であっても様々な表現が行われていることを知ること等、子どもが表現の多様性と可能性を体験的に捉えることである。その中で、詩から音楽への移り変わりを捉える学習も有効であろう。

また、作曲者が、何故そのようなリズムや旋律を用いたのかを考えたり、リズムや旋律のもつ効果について考える活動を導入すれば、表現したいことと表現手段の関係を捉えることができるだろう。作曲者が伝えようとしたことを自分なりに解釈し、自分はどうのように表現したいかを考えて歌うことにより、子ども一人一人の表現が実現されるのではないだろうか。

本実践で得た結果や指導の課題を踏まえ、今後も実践的な研究を行っていきたい。

【注および引用】

- 1) 『音楽のおくりもの同6』「音楽で気持ちを伝えよう」教育出版、「歌詞から感じる気分を生かして歌おう」『小学生の音楽5』教育芸術社。
- 2) コミュニケーションには、主に言語によるものと非言語によるものが相互に補完し合ってメッセージの機能を高めている場合が多い。バードウィステルによれば、非言語による割合は65%程度であるという。Birdwhistell, R.L. Kinesics and context, Philadelphia University of Pennsylvania Press, 1970.
- 3) 堀尾輝久「学ぶことと子どもの発達」『岩波講座教育の方法2 学ぶことと子どもの発達』岩波書店、1987、p.22。

Title : A Trial of Learning Singing Expression on the base of Images and Feelings
- A Case Study in a Primary School-

Haruko KATO (Faculty of Music, Kurashiki Sakuyo University) ,
Takanobu HENMI (Kurashiki municipal Kotourahigashi Primary School)
Shinobu OKU (Faculty of Education, Okayama University)

Abstract : In learning singing expression, school children learn mostly how to express images and feelings of the song. In this context, it is necessary to have experiences to convey his/her images and feelings each other. Without those experiences, children cannot express their images and feelings well. In this study, a classroom teaching/learning for singing expression from a view-point of mutual communication was tried in a primary school. Though observing and analyzing this practice, the following points became clear.

- ① Thinking content of expression and devising singing, the children were able to appreciate joy of expression.
- ② The children were able to realize what was necessary to express their images and feelings.
- ③ The children realized a variety of expression and were able to appreciate different ways of expression by other children.

Keywords : images, singing expression, communication, free expression, acquisition of song skills
